

NVC Monthly



同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報

第5号(091009)

発行 竹田幸男

10月例会開催



平成21年10月例会

例会の窓

日時 平成21年10月9日
13:30～16:30

場所 寝屋川市民活動センター
(市民会館4F) 子供部屋

出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹嶋 竹田 竹下 谷(9名)

欠席者 田淵(1名) (50音別 敬称略)

例会次第(今回の要約 竹嶋氏)

1 . 竹田会長報告

(1) 前回報告の「寝屋川まつり」撮影時の失敗事例について追加情報。

・太鼓をたたく「バチ」がマルチストロボ状態になったのは、ビデオカメラの設定が「24コマ撮影」になっていたことが原因。

同時に「シネマモード」にも設定されていたので、映像のコントラストが弱く、活動的な画面にムードが合っていなかった。

高級ビデオカメラにはこの機能が付いているので要注意です。

(2) 「寝屋川市民文化祭」に当同好会会員から2点の応募がありました。

竹下さんと竹嶋の作品です。

・11月1日(日)10:00～16:00

於：寝屋川市立総合センター 視聴覚室

(3) 第13回「大阪アマチュア映像祭」にご参加ください。

・10月25日(日)12:30開場、13:00上映

於：大阪市立中央図書館 5階大会議室

2 . 他団体との交流会について

「寝屋川映像協会」と「映像北大阪」が、来年年明け(1月か2月)に交流会の開催を計画している。今回は映像北大阪が寝屋川を訪問する予定。

当同好会も合流して3グループで交流をしてはどうか。

日程が決まり次第、参加することで合意。

3 . ビデオ撮影講習会の開催について

枚方市での一般市民が参加した講習会の事例などから今回「保留」とする。

(例)「撮影講習」が「ビデオカメラの使い方相談」になってしまった、などの課題あり。

4 . 同好会会報について

自由投稿を歓迎します。奮って応募してください。

梶本さんの「入会感想」など、期待します。

5 . 作品映写

(1) 「アオバトに会えた」: 3分31秒 谷さん

出た意見：寒い山田池公園で3時間も待って撮影に成功した苦労がわかるような工夫があればいい。アオバト以外に周辺の雰囲気や風景も入れておくとわかりやすい。テロップの文字と間隔に少し注意。

(2)「東映太秦映画村」(静止画作品)：2分50秒 石田さん

出た意見：バックの曲(京都の恋)が良かった。

古い映画のポスターや俳優の写真がもっとアップして見やすくなるとよい。
懐かしいけれど一寸見づらい。映画村の風景もワイド アップなど変化を持たせるとよい。

静止画が5秒間隔(一定)だけでなく、パパッと変わったり、じっくりと見られたり、時間差のアクセントをつけるとよい。

(3)「人生の扉」(前回作品の改定版)：6分24秒 天野さん

出た意見：歌詞テロップが入って随分と内容がわかりやすくなった。

初めて出て来る年代一覧を見るのに追いつけなかった。あとのそれぞれのシーンに入れる方法もあるのではないか。

今回初めて見せて貰ったが大変感動した。

(4)「わが町公民館まつり」(前回作品の完成版)：9分46秒 竹田さん

出た意見：ナレーションが充実した。仲のよい町、皆さんの人と成りやい
い笑顔が伝わって来る。

(5)「中国少林寺・胡同・虎林」(DVD作品)：磯谷さん(奈良在住)/(参考映写)

出た意見：ビデオ作品というより旅行記になっている。手ぶれが気になる。
現地音のレベル調整が課題。終わり方が静止画になっているが動画で終わる工夫もあればいい。

6 . その他

(1) 来年4月撮影会の詳細計画は、田淵さんの例会参加時に検討するが、撮影会としては、皆の出発に先立って少人数で現地を訪れて準備状況を撮影しておき、会員はその映像をもらって各自の作品に加える等の工夫を考えてみたい。

(2) 例会時の各位からのお菓子持参は、今回は休止することにします。

(3) 次回例会：11月13日(金)13：30～ 市民会館4階予約済み
ビデオカメラ映写担当：竹田さん

(注)12月11日(金・忘年会前)の例会会場も子供室館に予約済みです。

Technical News

トムソン・カノーブス社

編集ソフト EDIUS Neo 2 Booster 発表

今までハイビジョン映像、特にAVCHD形式の映像データは、相当強力なCPUを持つパソコンでも、そのままスムーズに編集することは難しいものでした。編集をするということは、編集した成果を再生してみて確認することで完結するのですが、その際に再生の動きがぎこちなかったり、止まってしまうため、編集が困難になっていました。

そのために、いままで大きく分けて主に2つの方法がとられていました。

1. AVCHDのデータを編集しやすい形態のデータに変換した後に、このデータを編集する方法。たとえばカノープスのエディウスの場合AVCHDのファイルをHQコーデックというデータ形式に変換して、それを使って編集しています。

2. AVCHDのデータから「プロキシファイル」という解像度の低いファイルを作り、このファイルを編集して、この編集データを基に、元のAVCHDファイルを時間を掛けて編集し直して完成した映像にする方法、ビデオスタジオがこの方法を採用しています。

1.の方法は、HQコーデックに変換する時間を要し、またHQコーデックは編集はしやすいのですが、データ量が数倍にふくれあがるので扱いにくいものでした。

2.の方法は編集の時に見る画面は粗い映像なので、真のハイビジョンの映像が編集画面で見られない、という難がありました。

いずれの方法も編集後は「レンダリング」という作業をして最終の編集結果を出力しなければならず、時間がかかっていました。

今回カノープス社の開発したEDIUS Neo 2 Booster は、「AVCHDファイルの再生機能を根本から見直ただけでなく、マルチコアの利用効率を高めることで」つまりCPU内の複数のコアの最適利用により、「コア2 DUO以上のCPUを搭載するパソコンユーザー」はリアルタイム再生機能を享受できる、としています（ビデオサロン11月号より）。

カノープス社よりのメールを下記に掲載します。 (竹田)

1.新製品「EDIUS Neo 2 Booster」のご案内

「EDIUS Neo 2」の機能を更にパワーアップさせ、最新 OSの「Windows 7」に対応した新製品「EDIUS Neo 2 Booster」が来る11月中旬に発売されます。

「EDIUS Neo 2 Booster」はハイビジョンビデオカメラ、一眼レフ動画、などのさまざまな映像機器で撮影された動画や Windows Mediaや Quick Timeなどの映像ファイルをを軽快に編集できるビデオ編集ソフトです。

特に新機能として、AVCHDファイルのネイティブ編集が可能になりました。

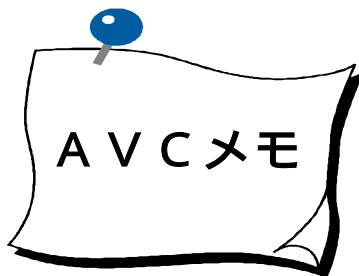
AVCHDファイルのまま、3ストリーム＋カラーコレクション＋タイトルがリアルタイムで編集できます。
(Core i7使用時)

また、最新 OSである「Windows 7」(Starterを除く)に対応。64bit版にも対応します。

その他、手ブレ補正機能や3Dトランジションなど、「EDIUS Pro 5」に負けない豊富な編集機能を備え、ブルーレイや DVD作成、モバイル映像の作成にも最適です。

プレスリリース

http://www.thomson-canopus.jp/press/2009/edius_neo2_booster.htm



テープの使い回しは やめませんか

竹田 幸男

発表会などに出す作品を選考しているとき、「あの作品が印象的だった」という発言があって、作者に「***の作品をちょっと編集し直して出品しませんか」というと「あの作品は元のテープがないので、編集できません」という答えが返ってくる人が多いのです。その貴重なテープは再度撮影に使ってしまったようです。このようにDVテープを2度、3度お使いになる方が多いように見受けられます。

でも、ちょっと気をつけてください。いったん撮影に使ったテープには、次のような問題が潜んでいます。

テープ式のビデオは記録ヘッドが取り付けられたヘッドドラムにテープが巻き付けられ、ヘッドドラムが高速で回転し、テープがゆっくりと送られながらヘッドがテープに対して記録していきます。ヘッドの回転方向とテープの進行方向がずれているので、ヘッドはテープの進行方向に対して斜めになったトラックに映像、音声を記録していきます。

DVテープの場合、1画面(1フレーム)は12本のトラック(データが記録された軌跡)で構成されています。言い換えると1フレーム(2フィールド・・・約30分の1秒間)に記録ヘッドがテープの上を12回走ることで1枚の画像が完成します。

撮影の時はテープがゆっくり進行しているので、テープに記録されたトラックは重ならず、テープの1つの部分にはヘッドが1回当たるだけです。しかし、撮影を停止しているとき、つまりカメラの電源スイッチを入れて撮影を開始する前、または1カットの撮影を終えて「ストップ」とボタンを押したあと、次

の撮影を始める前は、テープの進行が止まっているので、30分の1秒間に12回、つまり1秒間に $12 * 30 = 360$ 回、1分間には21,600回も、テープの同じところをヘッドがこすっているのです。普通、電源スイッチを入れて5分間、また撮影を止めてから5分間はこのような状態が続くように設定されています。これだけこすったらテープの表面に付着している磁性体が剥がれてしまわないか？ と心配になりませんか。

プロ用のカメラには、テープが止まっている間、テープの緊張を少しゆるめて、テープに対するヘッドの当たりを和らげるようにしたものがある、ということです。しかし皆さんの持つカメラには、恐らくそのような複雑な構造は望めないと思います。このようなヘッドによる摩擦が続いた場合、必ずテープにキズがつくわけではありませんが、どこかでキズが付かないとも限りません。このようにしてどこかに傷がついたテープを再び撮影に使うと、1つのカットの途中で傷のためにブロックノイズが出てしまうことになります。

DVカメラが出た当時、テープがいくらしていたかは覚えていませんが、高かったらと思います。その頃なら、貴重品として、用が済んだテープは消して再度のお役に立てた人は多いと思いますが、今やDVテープ1本200円程度で買える世の中、撮影に費やした努力は大事に残しておいてほしいものと思います。 ■